

平成29年度テクノアカデミー郡山産業人材育成推進協議会議事録

日 時 平成30年2月13日（火） 午後1時30分～午後3時30分

会 場 テクノアカデミー郡山101大講義室

出 席 者

および所属 山崎 智史（一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構）

斎藤 浩（株式会社朝日ラバー）

柳沼 利保（一般社団法人福島県建築大工業協会）

山田 剛（郡山商工会議所）

金澤 洋一（白河商工会議所）

高橋 隆行（国立大学法人福島大学）

松本 明倫（福島県立福島工業高等学校）

石澤 義夫（郡山公共職業安定所）

小野 浩幸（郡山市）

木沢 俊哉（県中地方振興局）

橋本 武（県南地方振興局）

岡部 隆（テクノアカデミー郡山）

議 題

- (1) 福島県立テクノアカデミー郡山職業能力開発実施計画（地域貢献プラン）」の進捗状況について
- (2) 産業人材育成に向けた取り組みについて
- (3) その他

議 事 録

次第に沿って校長より挨拶、出席委員の紹介、施設案内の後、議題に入った。

議題（1）について、事務局から資料1-1、1-2、1-3により地域貢献プランの概要と平成29年度の進捗状況について説明を行った。

会 長：それでは只今の説明につきまして御質問等がございましたら宜しくお願い致します。

委 員：学卒者訓練の入学状況について、定員70名に対して入学者66名という事ですが、66名の男女別と出身地として中通り・浜通り・会津の割合はどうか。中通りの方が多いということは想像しているのですが、更に県北地方・県中地方・県南地方というのが分かればお願いしたい。

事務局：皆さんのお手元にありますテクノアカデミー郡山の冊子を開いて頂きますと下に円グラフがございます。平成29年度の入学者という事で、今の御質問の一部分になるかと思えますけれども、出身地域は県中地域が60.6%、出身学科については普通科が42.4%

等と御覧の内容でございます。女子学生は66名中3名となっております。

委員：学卒者訓練に関連して何点かお聞かせ願います。入学者ですが平成29年度は66名と前の年から比べるとぐっと増えたという事ですけど、それに伴って非常に努力をされている。高等学校訪問が延べ161校、オープンキャンパスが5回、これすごい数ですけど、職員の数から考えてオーバーワークになってないか心配になる感じです。この会議の一つの目的は事業が適切に行われているかに関して意見交換するものと理解して頂いた上で、数値目標として重要なのは分かるんですけど、それを実施する体制が果たして適切であったかどうかは重要ですが、その辺はどうだったのかなと思います。私共もオープンキャンパスや高校訪問はもちろん大学ですのでやった訳ですけども、数値だけ見るととんでもない数値だと関係者としては思ってしまう。それと関連した事ですけども入学者の数が増えると、言い方が悪いかも知れませんが、学生さんの学力というレベル的なものも多少心配にはなります。例えば中退者が増えてしまうと就職率に影響が出るとかそういった副作用も出るがその辺は如何でしょうか。

会長：高校訪問の体制という事ですが、建築・組込・精密全部で職員13名おりますが、手分けをして高校訪問を地域毎に一日大体5、6校回るようにしております。高校の先生方もお忙しいところもあって場合によっては30分とか10分程度のところもあって割と効率良く回っていますし、高校との繋がりもありますので決して無理な数字ではないのかなと思っています。大体年間3期位に分けて入試の前に実施しているところでございます。オープンキャンパスにつきましても例年5回となっております。内容について工夫をしてドローン等の教材を紹介したりして充実させてございます。それと学力の方につきましては途中で退学者が例年3、4名はございます。学習意欲の減退とか自分の思い描いていた学科内容と違うとかありますが、最近増えていますのは経済的理由という事で、就職という事になってはおりますが実際は家庭的な事情が大変で辞めていくという学生が残念ながら年間2、3名いる状況でございます。学力については先生が指導しておりますし、定員が70名という範囲内では施設的にも人材的にも大丈夫と考えているところでございます。

委員：学卒者訓練が頑張っ入学が増えていますが、付随する副作用的な物はあまり顕在化していないというのは素晴らしい事です。

委員：学卒者訓練の（卒業3年以内の）離職率ですが、建築科の離職率の割合が結構高いのですけれども、建築業界とか人が欲しいという状況でニーズはあるのでしょうか。

会長：就職先としては設計・施工管理・現場監督もあるのですが、一番多いのが所謂工務店、大工という職種が就職先としては多くなっております。その際、大手のハウスメーカー等もあるのですが実際小さな工務店もございまして、昔でいえば徒弟制度と言っては恐縮なん

ですがそういうところが残っている面がございまして、どうしても合わないという事で建築科は少し多くなっているというところがございます。二年間いろいろな形でコミュニケーションを取りながら取り組んでいるところでございます。

委員：（学卒者訓練の）県内就職率が93.7%と高いですが、普通実業高校で80から90%位と聞いておりますけれども、県内企業の説明会はどのような形で実施しているのでしょうか。

会長：県内企業の説明会につきましては、各企業の方に本校にお出で頂いて学生を集めて教室で実施してまして、昨年ですと40社程度お出で頂きまして説明会を開催しています。勿論個人的に大きな合同企業説明会に参加する者もおりますし自分で見つけてくる者もおりますが、主は企業にお出で頂いて実施しているところでございます。

委員：あと実施時期はいつ頃でしょうか。

会長：実施時期は実際には4月、5月が中心になっております。郡山商工会議所様には別な観点で1月に開催して頂いた訳ですが、これは今年初めてのケースでございます。

委員：障がい者の訓練については、基本的には離職者との混合訓練と企業内実習を主体とした個別型訓練という事で、学校の中で特別なコースを設けているのではなくて、こういうメニューを用意しているというやり方で対応されているのでしょうか。

会長：混合訓練の方は一般の方と一緒に実施しているのですが、応募としては区別なく応募してきます。もう一つの企業内実習は事業主訓練でございまして、障がい者の方お一人一人と企業一つ一つをマッチングしまして最大一か月以上三か月以内の訓練を実施して頂きまして、上手く合えば正式な雇用に結び付けて頂くという訓練です。このような制度紹介を企業様にも障がい者の施設の方にも行い掘り起こしに努力をしているところでございますが、企業様の理解を得て雇用に結びつけていければと思っているところでございます。特徴は、企業の負担ではなくいわば三か月のトライアル雇用のようなもので全部費用負担が国の方から出るという事もございまして制度を活用して頂きたいと考えております。

委員：（障がい者の訓練として）8コース、6コースとありますけれども、これは（組込技術と精密工学の）学科にある程度対応しているのでしょうか。

会長：全く別でございます。例えば大手スーパーさんや運送会社、福祉施設などそれぞれ一つの企業様毎にお願いしてございます。マッチングに結び付くまで職員が苦勞しているところでございます。

委員：在職者訓練に関してですが、受講者が増加した要因としてオーダーメイドセミナーの依頼の増加とありますが、具体的にオーダーメイドセミナーで今非常に人気が高く要請・要望の多いテーマがあれば教えて頂きたい。

会長：割と多様に実施されておりまして、企業様のオーダーや産業団体様の要望に応じて実施をしています。本校の先生方の出来る範囲でやっております。

会長：他にございませんか。それでは、議題2 産業人材育成に向けた取り組みにつきまして事務局より説明願います。

議題（2）について、事務局から資料2-1、2-2、2-3により平成29年度学科別懇談会での意見、成長産業等人材育成等についての各科の取り組み、参考としてふくしま地域創生人材育成事業について説明を行った。

会長：只今の説明に関して、御意見、御質問等がございましたらお願い致します。

委員：ちょっと突飛な事を申し上げるかもしれないですけども、特に建築科のところ、全体でもいいんですが、留学生というのは御校にはいらっしゃるのでしょうか。

会長：おりません。

委員：建築科というのはそういう魅力があるような気がします。精密も組込も勿論いいと思いますが、それは外国人も本国で出来る。建築は日本に出来ない出来ない事で、そういう意味で非常に面白い取り組みが外国人向けに出来ないかと。ニーズがあるかどうかも含めて分かりませんが、思いつきで恐縮ですけども。

事務局：外国人の方から魅力を感じて頂けるのであれば、そういう機会を設けられれば良いと感じております。

委員：今宣伝して回っている場所は基本的に高校とかですけども、ちょっとチャンネルは分かりませんが、外国人向けの広報とか面白い展開が生まれるかも知れない。

会長：外国の建築様式にもよるとは思うんですけども、今まで考えた事が無かったので検討させて頂きたいと思います。

委員：正直なところ先生が言ったように95%位はプレカットです。学校で色々一生懸命墨付け手刻みという部分を教えているのですが、受け入れ先はほぼ皆無に等しくなっているという状態の中で、それをやってそれを活かせる場所が無い。今の生徒達もそういう状況

の中で、学校で習った部分と想いが違ったという部分で多分離職者が出るというのがある。実際墨付け手刻みでやっているのは多分郡山の中でも私の所くらいしか無いかなという状況で、後は殆どプレカットでやって組み立てるといふ大工さんのような気がします。

会 長：他にございませんか。それでは無い様でございますので、議題3その他として事務局からありますか。

事務局：特に用意はしておりません。

会 長：それではこれまで御説明した内容や何でも結構でございますので順に一言ずつお話を伺えればと思います。

委 員：コミュニケーション不足だとか他の社員と関係が上手く築けないとあります。これは建築に限らず精密工学に限らずあちこちの職場で頻繁に起きている事ではないのかなと思います。子供相手の学校では無いので何処までやれるか非常に難しい問題ではありますけれども、四年制のコンピューター系の大学でもこれには大分悩んでらっしゃるお話も伺っております。コミュニケーションのあり方というものも、文字を介してではなくて言葉を介してというコミュニケーションのあり方も場合によっては考えていく必要もあるのではないかなというふうに考えております。

話が飛んで申し訳ないですけれども、ロボットとか医療とか最新の分野を意識されているようでございますけれども、この考え方は決して間違っていないのかなとは思いますが、現実問題として整形用インプラントを手に入れて設計製作をするような事に携わってける学生さんがこれから出てくるのかというところがございましたら、3Dプリンタとか今や当たり前の技術になったCAD・CAMといったものを学んでいく事に関しては価値のある事でございますので、ベースになる技術を大切に頂きたいかなと思います。一方では特に医療機器の関係ですと、商品化して製品化するまでの許認可の難しさという事もございます。こういった事にもちょっと触れて頂くと学生さんも社会生活で役立つのかなという印象を持って聞いておりました。

あと、建築関係のカンナの刃を磨いていく話と例えばラズベリーパイについて先程御紹介頂いたような話とちょっと趣を異にする感じは致しますけれども、ベースの技術は結構同じなのかなと思います。手に職を付けるという意味では本当に基礎をしっかり学んでいただきたい。カンナの刃を磨くのと電子回路でリレーの脇に還流ダイオードを付けるとか基礎的な事をちゃんと学んで頂いて社会に出て頂ければいいのかなという印象を受けました。

また、材料の事も特に精密機械工学科とか建築科の方々は身に付けて卒業して頂きたい。民間企業で生産されている物を見ても、例えば快削材をそのまま塑性加工して使用されている例もございます。何年か経ってから一気に不良品になって大変な仕事になる事例もございます。木材も同じ事で輸入材に頼るようになってきて材料の性質を知らないままあちこちで使ってしまったって事故になっているケースもあるので、そういったところも触れて頂

ければありがたいと考えております。

会 長：コミュニケーションにつきましては、一クラス定員が20名から30名なので先生方の目が届くという事もありますし卒業研究等で個別に対応する事もありますので、そういう過程でコミュニケーション能力を少しでも鍛えられればと考えているところでございます。基礎的技術につきましてもしっかりと身に付けさせて企業に入りましてから成長出来る人材を育てたいというふうに考えてございます。

委 員：当社に卒業生が10名ほど在職中でございまして大変御世話になっております。インターンシップや工場見学等も受け入れさせて頂いておりますが、採用の方が最近無いものですからちょっと残念なところがあると思っております。校長先生の御挨拶の中で実験実習に6割も時間を割いているという事だったので、設備も先程見学させて頂きまして即戦力として我々は期待しているのです、是非2019年度は応募があればなと思っております。昨年は入学者の充足不足という事で（昨年の協議会で）私も宣伝が足りないのではないかと言ったと記憶しているのですけれども、今年については全ての項目がAという事で限られた人数の職員の方々の努力が実を結んでいるのかなと思っております。

委 員：建築という分野だけでいうと、29年度の学科別懇談会の中で企業が求める人材とか教育内容について書いてあるのですけれども、生徒にばかり求めているが受け入れる側もこれをもう少し柔軟に受け入れた方がいいと思います。全部学校側に求めている感じがあり、実際二年でそういった事が建築に関してはまず無理なのかなと思います。そして学校の授業を見ていると実際使わないような事を一生懸命学校側が教えているのに、受け入れる企業側がそれを活かす事ができないような工務店さんとか大手さんが殆どになっている。自分のところでそれを育てるという事をもう少し考えてもらって、生徒さんを受け入れられる方向の方が望ましいと思います。全部学校側に頼っている様な状況なので、もう少し企業の方も受け入れたらそれを育てる努力をするべきだと感じました。

委 員：郡山商工会議所と致しましては先般の企業合同説明会御一緒させて頂きまして大変ありがとうございました。参加させて頂いた企業さんの方でも継続事業として是非お願いしたいという事がありました。学卒者訓練の県内就職率が93.7%ということでしたが、一昔前のイメージで言いますとテクノアカデミーさんの卒業生さんは大体メーカーさんで東京に行ってしまうようなイメージもあったのですが、県内企業さんとの付き合いも広がっているという事で嬉しく思っております。今後は技術者関係の皆さんが溶接とかCADとかを新卒で入ってきた若い人達に教えたいという事で、テクノセミナーでまた継続的に御相談させて頂く機会もあると思うので宜しくお願ひしたいと思ひます。

会 長：テクノセミナーにつきましては出来る事はやりたいと思ひますので、利用して頂きたいと思ひます。

委員：昔から技術者は無口でおしゃべりが下手というのが定番でそういう方が多いのでしょうかけれども、コミュニケーションとして自分がやっている事をきちんと説明できるかどうかの評価される事もございますので、是非そういうカリキュラムを入れて指導して頂きたい。うちの進出企業が結構ありますけれども、人材を求めていますので是非お願いしたい。県南地方の入校者が少ないのでPRしたいと思っております。

委員：見学もさせて頂いてよかったですと思います。入学者の確保という事で大変努力されておられますけれども、この部分については色々な学校が大学も含めてありますので、どの辺にスペシャルな部分を置くのかをよくよく考えながら行くべき部分です。離職者についても同様で、最近ですと人材派遣会社も人材育成にかなり力を入れてきていて、要するに給料を貰いながら新しい訓練が出来て、ある意味非常に似ている機能を持ちつつある。そういうところに対しても特徴を出していくという事は長期的な計画になると思いますけれども重要なのかなと思います。県の施設という意味では少し自由度が狭められているかも知れませんが、先程申し上げた建築科の留学生の話ですが、留学生を採って日本国内に就職というパスでは無くて日本の建築を伝えるというような意味での役割と考えると、御校の設立経緯からするとあんまりマッチしないのかもしれませんが、もうちょっと長い目で見た時にそういう役割は他で実は無いのかなと思います。高度な訓練をみっちり二年間やらせるという施設は他に無いと思って申し上げた。そういう部分も考えつつ、当面は色々な目標を達成するために努力する訳ですけれども、もうちょっと長い目で見た時の役割も色々考えていって頂けるといいと思いました。

会長：精密機械ですと旋盤など他の専門学校ではできない事、建築もそうですが、特徴も出しながら、県の施設という事もありますので県が取り組んでいる施策に対応した人材育成やさらにその先を見据えながらやっていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

委員：テクノアカデミー郡山さんには、毎年福島県高校生ものづくりコンテストの旋盤作業部門で会場借用しており本当にありがとうございます。福島工業に限って申し上げますと今年4名の生徒を受け入れて頂きまして宜しくお願いします。福島県の工業高校は機械系、電気電子情報系、建設系、化学系と大きく四つに分けられると思いますが、それぞれの学科でものづくりとかロボット競技会とか更に力を入れているところではありますけれども、期間とか施設・設備とかそれほど十分とまで要望が通っておりません。先程質問させて頂いたのは我々も興味関心があるものですから、先端医療分野の人口膝関節とかドローンとかそこまで高校3年間ではきついなと思われる部分もありますが、そういう部分でテクノアカデミーさんが尽力されているのを目の当たりにして、今後とも連携を図りながら地域産業の担い手、それから震災からの復旧復興の担い手の育成に努めていきたいと思っておりますので御協力宜しくお願い致します。

委員：学卒者訓練の充足率という事で昨年も非常に苦しいというような事を仰ってましたけれども、大変御努力頂きまして本当に感謝申し上げます。素晴らしい努力だと考えております。離職者等訓練、その中でも今人手不足という事で特に女性それから高齢者の活用、更に障がいをお持ちの方でもその特性に合わせて働ける方、それから能力を発揮して頂くという事が非常に重要視されております。その人材の育成、それから特に障がい者については訓練のマッチングに御努力頂いておりますこと誠に厚く御礼申し上げます。引き続き御努力頂ければ私共も進めていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。最後になるのですが、学卒者訓練の離職率で建築科が他科と比べて非常に高いということで学生さんの考え方と求人者の現場とのずれがあるのかなというところがちょっと気になっている。ついでには就職の斡旋に当たっては、求人者にも今働き方改革という事が言われております。求人者の方にも少し福利厚生であったり週休二日制の導入であったり、そういうものを働きかけて離職にならない形の進め方をお願い出来ればなと思います。

会長：建築科の就職の決まり方が精密や組込みとちょっと違って個別に決まるところもありますので、御意見を踏まえながらやって行きたいと思えます。

委員：学校の地域貢献プランを聞かせて頂きまして県内に対してという事でございますが、郡山市内の学生さんもいる中で、在職者・離職者・障がい者と尽力頂きまして御礼申し上げます。この分野、確かに厳しい環境ではありますが引き続き御尽力頂きたいと思えます。これからの社会はさらに発展して行く訳でございますけれども、ものづくりが基本だと考えておりますので引き続き尽力いただきたいことと、あと県が進められております成長分野の人材育成については、郡山市におきましても両輪で成長分野について、特にA I 中心に人材育成にも力を入れていくというふうにしておるところでございますので、地元という事もありますので御協力出来る事があればと思えます。

委員：日本の経済にとってのものづくりというのは非常に大事な物と考えております。下町ロケットでありますとか、最近ですとボブスレーのそりとかありますけれども、そういったものづくりについて実践的に産業人材を育てている現場を見せて頂きまして素晴らしい事だなと思っております。テクノアカデミーの会津とか相双にもありますけれども、学校のカラーもあるのかなと思って見ていたところがございますので、そうしたカラーの部分も今後深めて頂きながら産業人材育成を推進して頂ければと思えます。

委員：私は県南地方振興局という事で県南地方の話に関連させて話させて頂きますと、県南地方はものづくり産業・製造業が非常に盛んな地域でありまして、私ども振興局は企業訪問で管内の企業さんを回らせて頂いて、様々な意見を聞いて回っております。やはり一番多いのは人材不足で、特に新規の高卒者を管内の企業さんが取り合いの状況になっておりまして、中々新規高卒を申し込んでも全然埋まらないという声がよく聞かれているところでございます。そういう中で、先程入学者の話させて頂きましたが、29年度入学者は（県

南地域から) 3%ですと恐らく2人位で、28年度就職内定者の地域別の割合を見ますと
県南地方14%で恐らく10人位の方々が県南地方に来られている。まあ年度は違いますが、
2人が入学して10人という事で非常に御校の人材確保、人材育成も含めて、非
常に大きな力になっているというところが数値として表れていると思いました。引き続き
人材の育成確保に御協力をお願いしたいと思います。それからもう一点ですが、実は昨年
度も申し上げました県南地方産業サポート白河という組織を作りまして、県南地方の9市
町村、それから白河商工会議所さんを始めとした経済団体皆さんが集まって、産業人材の
育成確保それから事業の販路拡大にみんなで取り組んでいきたいと思いますという事で組織を立
ち上げております。その中で毎年やっているものづくり講習会、こちらでいうテクノセミ
ナー、御存じだとは思いますが様々な講習会に先生方を派遣頂いて昨年度も10種類近い
講習会に協力して頂いているところに感謝を申し上げまして私からの感想とさせていただきます。

会 長：産業サポートさんのコース数も年々増えているような状況ですので、出来る限り御協力し
ていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

会 長：全体として後何かございますか。それではありがとうございます。本日頂きました御意
見等につきましては今後の本校の訓練内容に生かして参りたいと思っております。今後ともどう
ぞ御支援のほどお願い致します。

事務局：それではこれを持ちまして産業人材育成推進協議会を終了させていただきます。皆様方の貴重
な御意見お時間どうもありがとうございました。